# 検査Ⅳ　国　語

【一】次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

（山極壽一『共感革命』による）

問一　二重傍線部①「ムホン」、②「隠棲」、③「怨恨」、④「モウ」、⑤「ホウキ」について、漢字はその読みを、カタカナはその漢字を答えなさい。

問二　傍線部A「これはユネスコのMAB（Man and the Biosphere 人間と生物圏）計画の概念とは違う」とあるが、どういうことか。一三〇字以内で説明しなさい。

問三　傍線部B「『あいだ』の技法を高度に洗練させた傑作と言える」とあるが、それはなぜか、その理由を一二〇字以内で説明しなさい。

問四　傍線部C「日本や東洋の思想」の説明として、次のア～オが、適当な場合は○、間違っている場合は×として答えなさい。

ア　森や山、川や海を人に害をなす悪霊や悪魔の住み処であるとみなし、人が神の力を借りて征服する領域であると考える西洋の思想よりも劣っている。

イ　里山や里海に鳥居を建て、豊富な資源によって産業が発展していくよう祈願したり、ご来光を拝んだりといった習慣が生まれた基になっている。

ウ　余白という一見無の画面に、花鳥風月や人々が行き交う世界を想像し、世界の中に隠れている根源的な動きを、われわれの目や耳で一時的に捕まえて可視化する。

エ　「存在とは常に移りゆくもの」という輪廻転生の思想や、あらゆるものがつながっているという縁起の思想、主観、客観という二元論に基づいている。

オ　自己が確立されていない集団主義的なもので、自我の確立と客観視が必要だと非難の対象になり、歴史的に悲劇を生む基になったこともある。

問五　傍線部D「日本人の情緒も失われつつあるのではないだろうか」とあるが、筆者がそう考えるのはなぜか、本文全体を踏まえて、一〇〇字以内で理由を説明しなさい。

問六　この文章の表現に関する説明として適当なものを、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア　この文章は、対比的な内容を挙げることによって、筆者が述べたいことについて読者がイメージを明確にしやすいものになっている。

イ　この文章は、豊富な具体例を挙げることによって、抽象的な内容を、読者が具体的なものと結びつけて理解しやすいものになっている。

ウ　この文章は、筆者の考えとは反対の考えを持つ思想家の言葉も引用することによって、多様な視点からの考察を読者にうながすものになっている。

エ　この文章は、問題提起する形で繰り返し読者に問いかけ、話題を明確にすることによって、読者の理解を深めるものになっている。

オ　この文章は、難解な語句や、読者に馴染みのなさそうな語句の後に、（　）を用いて、その語句を補足することによって、専門知識のない読者でも読みやすいものになっている。

【二】次の文章は、『源氏物語』の一節である。光源氏は、内大臣と夕顔の遺児玉鬘（たまかずら）を実の娘として引き取った。玉鬘には兵部卿の宮（本文では宮）をはじめとする多くの貴公子たちが熱心に求婚しているが、養父である光源氏も玉鬘に懸想する一方、宮との交際を勧めるため、玉鬘は困惑する。ある夜、玉鬘を訪れた宮が、一計を案じた光源氏が隠れているとも知らず、玉鬘に几帳を隔てて対座し語りかけた。以下はそれに続く場面である。これを読んで、あとの各問いに答えなさい。

何くれと言長き御(Ⅰ)答へ(a)聞こえたまふこともなく思し(い)やすらふに、(X)寄りたまひて、御几帳の帷子を一重うちかけたまふにあはせて、さと光るもの、(Ⅱ)紙燭をさし出でたるかと(Y)あきれたり。蛍を薄きかたに、この夕つ方いと多くつつみおきて、光をつつみ隠したまへりけるを、さりげなく、*とかくひきつくろふやうにて。にはかにかく*掲焉（けちえん）に光れるに、(ろ)あさましくて、扇をさし隠し(b)たまへるかたはら目いとをかしげなり。おどろかしき光(c)見えば、宮ものぞきたまひ(d)なむ、わがむすめと思すばかりのおぼえに、かくまでのたまふなめり、人ざま容貌など、いとかくしも具したらむとは、え推しはかりたまはじ、いとよくすきたまひぬべき心まどはさむ、と構へ歩きたまふなりけり。まことのわが姫君をば、かくしももて騒ぎたまはじ、うたてある御心なりけり。他方（ことかた）より、やをらすべり出でて(Z)渡りたまひぬ。

宮は、*人のおはするほど、さばかりと推しはかりたまふが、すこしけ近きけはひするに、御心ときめき(e)せられたまひて、えならぬ羅の帷子の隙より見入れたまへるに、一間ばかり隔てたる見わたしに、①かくおぼえなき光のうちほのめくをかしと見たまふ。ほどもなく紛らはして隠しつ。されどほのかなる光、艶なることの(は)つまにもしつべく見ゆ。ほのかなれど、そびやかに臥したまへりつる様体（やうだい）のをかしかりつるを飽かず思して、げに②このこと御心にしみにけり。

A　「なく声もきこえぬ虫の思ひだに人の消つにはきゆるものかは
思ひ知りたまひぬや」と聞こえたまふ。かやうの御返しを、思ひまはさむもねぢけたれば、疾きばかりをぞ、

B　声はせで身をのみこがす蛍こそいふよりまさる思ひなるらめ
など、はかなく聞こえなして、御みづからはひき入りたまひにければ、いとはるかにもてなしたまふ愁（うれ）はしさを、③いみじく恨みきこえたまふ。すきずきしきやうなれば、ゐたまひも明かさで、*軒の雫も苦しさに、濡れ濡れ夜深く出でたまひぬ。

（注）
＊「とかくひきつくろふやうにて」…あたりを整えるふりをして
＊「掲焉」…著しく目につくさま
＊「人」…玉鬘
＊「軒の雫」…『新古今和歌集』の「ながめつつわが思ふことは日暮しに軒の雫の絶ゆる世もなし」による。「軒の雫」は涙の比喩

問一　太線部（Ⅰ）「答へ」、（Ⅱ）「紙燭」の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問二　傍線部（い）「やすらふ」、（ろ）「あさましく」、（は）「つま」の本文中における意味の組み合わせとして適当なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　（い）心を痛める　（ろ）驚く　（は）現実
イ　（い）安心する　（ろ）嘆かわしい　（は）妻
ウ　（い）ためらう　（ろ）わずらわしい　（は）糸口
エ　（い）安心する　（ろ）わずらわしい　（は）妻
オ　（い）ためらう　（ろ）驚く　（は）糸口

問三　二重傍線部（a）～（e）の説明として適当なものを、次のア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

ア　（a）「聞こえ」は、謙譲の補助動詞で、作者から光源氏に対する敬意を表している。
イ　（b）「たまへ」は、尊敬の補助動詞で、作者から玉鬘に対する敬意を表している。
ウ　（c）の「見え」はヤ行下二段動詞「見ゆ」の未然形、「ば」は順接の仮定条件を表す接続助詞である。
エ　（d）「なむ」は、願望の終助詞である。
オ　（e）の「せ」は使役の助動詞、「られたまひ」は最高敬語である。

問四　傍線部（X）、（Y）、（Z）の主語の組み合わせとして適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　（X）光源氏　（Y）玉鬘　（Z）光源氏
イ　（X）宮　（Y）宮　（Z）玉鬘
ウ　（X）玉鬘　（Y）光源氏　（Z）宮
エ　（X）光源氏　（Y）玉鬘　（Z）宮
オ　（X）玉鬘　（Y）光源氏　（Z）光源氏

問五　傍線部①「かくおぼえなき光のうちほのめくををかしと見たまふ」とあるが、宮はどのようなことに対し、このように思ったのか。「かくおぼえなき光」の正体について明らかにした上で、説明しなさい。

問六　傍線部②「このこと御心にしみにけり（心を奪われておしまいになったのであった）」とあるが、これは光源氏のどのような目論見によるものか。それが書かれている箇所を本文中から二〇字以内で抜き出しなさい。

問七　Aの和歌の「思ひ」には「火」が掛けられている。掛詞に掛けられた意味が明らかになるよう、口語訳しなさい。

問八　傍線部③「いみじく恨みきこえたまふ（宮はたいそうお恨み申し上げなさる）」とあるが、なぜそうしたのか。Bの和歌の内容を踏まえ、理由を書きなさい。

問九　『源氏物語』と同時期に成立した作品で、親王との恋物語を描いた作品を、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　十六夜日記　イ　和泉式部日記　ウ　土佐日記　エ　蜻蛉日記　オ　平中物語

【三】次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。
なお、設問の都合で訓点を省略したところ、文字を改めたところがある。

天ニ有リレ過チ乎。有リレ之レ、陵*歴闕*蝕是レ也。地ニ有リレ過チ乎。有リレ之レ、崩*弛竭*塞是レ也。天地ハ挙ゲテ有レドモ過チ、①卒ニ不レ累ハサニ覆*且ツ載ヲ者ハ何ゾ。善ク復かヘレバ常ニ也。人ハ介スレバ乎天地之間ニ、則チ②固ヨリ不レ能ハ無レキコト過チ。卒ニ不レ害セニ聖且ツ賢ヲ者ハ何ゾ。亦善ク復かヘレバ常ニ也。故ニ太*甲ハ思ヒレ庸ヲ、孔子ハ曰ヒレ勿カレト憚ルコトレ改ムルニ過チヲ、揚*雄ハ貴ブレ遷ルヲ善ニ。皆是③ノ術也。

予之朋ニ、有リニ過チテ而能ク悔イ、悔イテ而能ク改ムル。人ハ則チ曰ク、是レ向さきの之従事云しかル④爾。今ノ従事ハ与ニ向之従事ニ弗レ類セ。非ザルニ其ノ性*ニ也。飾リテ表ヲ以テ疑マどハスレ世ヲ也。⑤夫レ豈ニ知言ナラン哉。

天ハ播レキニ五*行ヲ於万*ばん霊れいニ、人ハ固ヨリ備ヘテ而有タもツレ之ヲ。有テドモ而不レバ思ハ則チ失フ。思ヘドモ而不レバ行ハ則チ廃ス。一日、咎メニ前之非ヲ、沛然トシテ思ヒテ而行ハバレ之ヲ、是レ失ヒテ而復タ得、廃シテ而復タ挙グル也。⑥顧かヘツテ曰フレ非ズトニ其ノ性ニ。是レ率キテニ天下ヲ而戕そこナフレ性ヲ也。

⑦且如人有財見簒於盗、已而得之、曰非夫人之財、向簒於盗矣、可与。不可也。財之在己、固不若性之為己有也。財失復得、曰非其財、且不可。⑧性失復得、曰非其性、可乎。

（『唐宋八大家文読本』による）

（注）
＊「陵歴」…星が衝突すること。　＊「闕蝕」…月食と日食。
＊「崩弛」…山が崩壊し地盤がゆるむこと。
＊「竭塞」…土砂崩れによって川の流れが塞がること。　＊「覆且載」…天地の働き。
＊「太甲」…殷の湯王の孫。　＊「揚雄」…前漢末の学者。　＊「性」…人の本性。
＊「五行」…万物の根源となる五つの元素。人の徳に当てはめて仁・義・礼・智・信の行い。
＊「万霊」…命ある万物。

問一　傍線部①「卒」、④「爾」の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで答えなさい。
問二　傍線部②「固不能無過」と述べる理由を三〇字以内で答えなさい。
問三　傍線部③「是術」とはどのような方法か。二〇字以内で答えなさい。
問四　傍線部⑤「夫豈知言哉。」について、
（1）すべてひらがなで書き下しなさい。
（2）口語訳しなさい。
問五　傍線部⑥「顧曰非其性。」と述べる理由を簡潔に表した部分を一〇字で抜き出し、最初の三字を答えなさい。
問六　傍線部⑦を「且つ人の財有りて盗に簒はれ、已にして之を得たるがごときに、」と読めるように返り点を施しなさい。（送り仮名は不要。）
問七　傍線部⑧「性失復得、曰非其性、可乎。」とはどういうことか。「過ち」と「本性」という言葉を用いて、五〇字以内で説明しなさい。

| 記号 | 国 |
|---|---|
| 番号 | |

# 【一】 検査Ⅳ 国語 解答例

問一 各2点　問二 12点　問三 12点　問四 各2点　問五 12点
問六 4点　計60点

**問一**
① 謀反（叛）
② いんせい
③ えんこん
④ 網
⑤ 放棄

**問二**
里山は、人間も野生動物も利用し、出会う、生物多様性の高い場所で、ハレとケの間にある場所でもあるのに対して、MABは野生動物の暮らす場所をコアとして人間の生活圏と分け、間に緩衝地帯を置くことによって両者の軋轢を緩和しようとするものであり、両者は別物だということ。

**問三**
動物を写実的に、しかも人間らしく感情豊かに描く鳥獣戯画は、動物でも人間でもない、あるいは動物でも人間でもあるという「あいだ」をつなぐ在在を「見立て」、生き生きと描く卓越したもので、後世に影響を与えていることから優れたものだと言えるから。

**問四**
ア ×
イ ×
ウ ○
エ ×
オ ○

**問五**
日本人の感性は、自然と一体になって発達してきたが、近代化に伴い、自然を征服の対象とする西洋の自然観が流入し、風景の読み方が一変し、山や海の神聖さや、里山や里海の「あいだ」としての機能が失われたから。

**問六**
ア、イ

| 記号 | 国 | 番号 |
|---|---|---|
| | | |

# 検査Ⅳ　国語　解答例

【二】　問一　1点×2＝2点　問二　2点　問三　完答3点　問四　2点　問五　5点
問六　2点　問七　6点　問八　6点　問九　2点　計30点

| | |
|---|---|
| 問一 | (Ⅰ) いらえ　(Ⅱ) しそく（ししょく） |
| 問二 | オ |
| 問三 | イ、ウ |
| 問四 | ア |
| 問五 | 宮は、光源氏がこっそりと隠しておいて放った蛍の光が、ほのかに玉鬘を照らしていたことに対し、見事だと思った。 |
| 問六 | いとよくすきたまひぬべきこころまどはさむ |
| 問七 | 鳴く声も聞こえぬ蛍の光でさえ、人が消そうとしても消えるものではありません。まして私の胸に燃える恋の火は、どうして消すことができましょうか、いや消せません。 |
| 問八 | 玉鬘が「声には出さずひたすら身を焦がしている蛍の方が口に出すよりもっと深い思いでいるでしょう」とさりげなく返事をして奥に引っ込んでしまったため、宮は自分をよそよそしくあしらう玉鬘の態度に傷ついたから。 |
| 問九 | イ |

【三】　問一　各2点×2＝4点　問二　5点　問三　4点
問四　(1) 3点　(2) 3点　問五　2点　問六　2点　問七　7点　計30点

| | | |
|---|---|---|
| 問一 | ① | ついに |
| | ④ | のみ |
| 問二 | 天にも地にも過失はあり、人間はその天と地の間に存在するから。 | |
| 問三 | 過失を改めて正常の状態に復帰する方法。 | |
| 問四 | (1) | それあにちげんならんや。 |
| | (2) | それがどうして道理をわきまえた言葉であると言えようか、いや言えない。 |
| 問五 | 今従事 | |
| 問六 | 且如下人有レ財見レ簒二於盗一、已而得レ之、 | |
| 問七 | 過ちを犯して本性を喪失しても、過ちを改め本性を取り戻せば、それはその人の本性だと言えるということ。 | |